

令和4年度厚生労働省

「見守り体制強化促進のための広報啓発事業・全国ひとり親家庭支援団体等による地域の見守り体制強化促進事業」

NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ

「ひとり親支援団体等による見守り体制強化促進連絡会議」  
第2回



# 第1回目連絡会議 概要報告

「ひとり親支援団体等による見守り体制強化促進連絡会議第1回」を開催。  
令和4年11月21日（月）10時～12時/参加者24名/アンケート回答16名。

## ●事務局説明

## ●団体事例報告（各団体20分程度）

- ・NPO法人STORIA 佐々木綾子さん
- ・NPO法人さんま 石川静枝さん

## ●コメント

- ・森田明美さん（東洋大学）
- ・幸重忠孝さん（NPO法人こどもソーシャルワークセンター）

## ●意見交換

司会：赤石千衣子（NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ）

# 第1回目の感想

(全般)

- 非常に勉強になった。
- 見守りの**基本姿勢**、**立ち位置の明確化**が重要とわかった。
- 子どもの人権を意識すること**、守ることが大切であり、その団体に適した、**適正規模の見守り**というものがあるということを知れて良かった。

(人材育成)

- 人材育成、熟練度やり方について聞きたい。
- スタッフが足りない、資源の少ない団体でもできる見守りについて学びたい。

(費用)

- 実際に見守りにかかっている費用を知りたい。
- 活用可能な助成金について知りたい。

## （森田先生のコメント 骨子）

- 見守りとは：危機への介入と回復（自分の人生を生きること）への伴走
- 見守りには段階がある：
  - 代わる（介入・代替）、一緒に（共同）、手伝う（補助）、自立
  - 信頼に基づく介入/専門的支援と市民的支援
- 当事者主体の支援：丁寧に信頼感を育むことの重要
  
- 子ども子育て支援の現状：子どもの声は届きにくい、貧困や家庭の問題は見えにくい、支援に繋がりにくい、福祉施策は利用しにくい、子ども施策の効果は見えにくい
  
- 予防や早期発見を目指す際の懸念
  - 信頼に基づく介入、専門的・市民的支援を行うこと/個人情報の問題
  - だけではなく、人権/子どもの権利を守ること/思想哲学のまなび/

## (幸重さんコメント 骨子)

- ピラミッドの中で、どの立ち位置で見守りを実施するのか。
- 見守りで大事にしたいポイント
  - ①こどものおかれている状態/背景/気持ちへの十分な配慮
  - ②体験活動/他団体との連携/信頼ある大人との深い繋がり
  - ③オーダーメイドの重要/マニュアルにしておくことの重要
  - ④適正規模の見守り/行政は数を求めるがそうではない

## 【意見交換まとめ】

- 行政と連携すること自体が一つのゴールというよりも、行政との連携にはバリエーションがある。
- 連携しない位置で、継続していくやり方は、ピラミッドの下の方ではあるが、そこでの持続的支援の重要性もある。

# 本日のプログラム

●事務局説明 第1回振り返りと第2回目の概要説明

●団体事例報告

NPO法人宮崎ひとり親家庭支援ネットワーク 長友宮子さん

NPO法人こどもサポートステーション・たねとしずく 大和陽子さん

●コメント

森田明美さん（東洋大学）

幸重忠孝さん（NPO法人こどもソーシャルワークセンター）

●意見交換

司会：赤石千衣子（NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ）

# 本日のゴール

## 行政とのつながりを見出す

→行政とのつながりには、いろいろなバリエーションがある

→どのステージの関わりでもすごく大事である

→食料支援だけでなく、学習支援、家事支援、体験活動支援など、見守りには、さまざまな関わり方がある